

学校法人 品川女子学院

平成21年度 事業報告書

平成21年4月 1日から

平成22年3月31日まで

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地

品川女子学院高等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

品川女子学院中等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

2. 生徒数

(平成21年5月1日現在)

学校名	入学定員	収容定員	現員
品川女子学院高等部	225人	675人	631人
品川女子学院中等部	200人	600人	624人

(注1) 休学者を含む

(注2) 留学生を含む

3. 役員等

(平成21年5月1日現在)

理事長	漆 邦臣
理事 (品川女子学院中等部・高等部校長)	漆 紫穂子
理事	塚田 成四郎
理事	藤巻 あや子
理事	高須 省三
理事	富本 道宣
理事	川村 文彦
監事	古谷 久恵
監事	戸川 五郎

理事定数 7人 現員 7人

監事定数 2人 現員 2人

評議員定数 15人 現員 15人

4. 教職員数

(平成21年5月1日現在)

教員数 93人

(内訳)

専任教員 63人

講師 30人

職員数 12人

(内訳)

専任職員 9人

契約職員 3人

II. 事業の概要

1. 教育目標 (ミッション)

私たちは世界をこころに、能動的に人生を創る日本女性の教養を高め、才能を伸ばし、夢を育てます。

2. 教育活動

(1) 28プロジェクト

28才になったとき、社会で活躍している女性を育てるため、自ら進路を選択し自ら目標を設定できるようにする進路指導を実践します。また、多くの人と連携して夢を実現できるようにするために、コミュニケーション能力を育成します。そして、国際社会で活躍する基礎スキルとして、TOEICによる英語運用力を育成します。

(2) 総合学習等

中等部では、各学年ごとにテーマ（1年「地域を知る」2年「日本を知る」3年「世界を知る」）を決め、そのテーマに基づいて年間の総合学習等の行事を構成しています。学習を展開するに当たっては、地域との連携、卒業生や保護者、外部の専門家の方の協力を得て行いました。

(3) 特別講座

大学、企業等の専門家に協力していただき、情報、科学、経済など様々なテーマで特別講座を行いました。

(4) 国際交流

中学3年は、ニュージーランドでの修学旅行で豊富な交流プログラムを体験してきました。現地校でのコミュニケーション、素晴らしい自然の中でのファームステイ、さまざまな社会見学・体験などを通して、文化交流を行いました。さらに語学習得を続けたい、異文化を学びたいという希望者はロングステイコースを設け約2週間延長を可能にしました。

修学旅行以外にも留学プログラムを5種類用意しました。

海外からの留学生も受け入れています。平成21年度は13人の留学生を迎え、在校生と親しく交流しました。

3. 生徒支援

(1) 奨学金制度

入学後の家計急変のため学業の継続が経済的に困難になった生徒対し、授業料を免除する「授業料特別免除」と、奨学金を贈与する「白ばら奨学金」の2つの制度があります。平成21年度は合わせて7人の生徒が制度を利用しました。

また、将来にわたる制度の維持のため、奨学基金（3号基本金）の積み増し及び募金を行いました。

(2) 留学生支援

海外からの留学生に対し、学費免除等の経済的支援を行っています。

4. 施設・設備整備

- ・将来の校舎改築に備え、校地に隣接する土地を購入しました。
- ・西棟の空調システムを省エネタイプに更新しました。
- ・演習室の黒板を更新しました。
- ・職員室と図書室のコピー機を更新しました。
- ・講堂にプロジェクターを設置しました。
- ・将来の校舎改築に備え、2号基本金の組入を行いました。

III. 財務の概要

平成21年度の収入は当初予算を上回りました。

増収の要因は、補助金、資産運用収入、私学財団交付金収入が増加したことによるものです。帰属収入全体で、予算を約1億4千万円上回りました。

一方、支出については、人件費、教育研究経費が予算を下回ったため、消費支出合計では予算を約1千万円下回りました。

施設関係支出等を主な内容とする基本金組入額は予算を約1千万円下回りました。

これらの結果、収支状況は帰属収入の増加が大きく影響して、予算段階での約2億8千万円の消費支出超過から約1億2千万円の消費支出超過へと改善することになりました。